

「天連関理府」

(無線電信関連雑学)

JJ1SXA 池

1、天連関理府

この題名を見て、即座に読めた方は、なかなかの歴史通、あるいは CW 通？

時は幕末の安政元年(1854 年)、アメリカ海軍のペリー提督が再度来航した時、色々な物を幕府に献上しましたが、その中には「有線電信機」もあり、これを幕府は「天連関理府…テレグラフ」と呼びました。

江戸幕府に献上されたのですが、収納箱の中央に張られた銘板には、「FOR THE EMPEROR OF JAPAN(日本国皇帝へ)」と刻印された立派な物です。

Telegraph の発音が、テレグラフに聞こえたのでしょうか、天連関理府という漢字を当てたのには、どんな意味があったのでしょうか？

アメリカで通信実験成功後、わずか 10 年しか経っていません、その頃に、電鍵と電信機が伝来し、横浜でデモ通信、翌年に幕府も通信実験を行いました、間もなく部品も無くなり、通信方法を習得した者もいなかったのも、この貴重な舶来品は、お蔵入りしました。143 年を過ぎて、1997 年に国の重要文化財に指定されています。

2、日本最初の和文電信オペレーター

江戸にテレグラフが到着して 1 年後の安政 2 年(1855 年)に、幕府の通信実験が、浜御殿(現在の浜離宮恩賜公園)において行われ、勝海舟が和文の電文を送信したということです、幕末の有名人、あの勝海舟が、日本最初の和文電信オペレーターとは驚きです。(当時の和文モールス符号は、臨時に考えられた符号で、現在のものと異なります)

3、かの有名な発明王エジソンも、優秀な電信オペレーター

エジソンも 20 歳代の若い頃は、いわゆる国内各地を放浪する渡りの「真鍮叩き」で過ごし、次の職が見つかるまではひどく貧乏な状態にありましたが、モールス通信技能に関しては、作業をやりながらも 1 分間に 150 字以上の高速送受信も平気でこなす卓越したモールス通信の名手だったそうです。(1860 年代頃、有線モールス通信のオペレーターはサウンダーの「真鍮叩き」といったあだ名で呼ばれていたようです。)

4、西南の役を勝利に導いた電信

明治政府は、電信機が非常に便利な物であると認識、各国からの献上品に加え輸入を始め、明治 2 年には、東京～横浜間で、日本初の実用電信回線が開通、その後各地に電信局を開局、回線を整備していった。

田原坂で有名な西南の役でも、西郷隆盛の挙兵(明治 20 年 2 月)から、戦死までの状況は長崎回線により、逐一各所に伝えられており、官軍勝利の大きな味方だったようです。

5、日本海海戦(日露戦争)の勝利は無線電信

マルコーニが大西洋横断通信実験をしている頃(1901 年)、海軍は研究と実験を始め、鋭意試作を急ぎ、ついに三六式無線機を完成、翌明治 37 年(1904 年)末までに設置対象艦の全てに装備を完了しました。

そして翌明治 38 年の日本海海戦で連合艦隊は、バルチック艦隊をほとんど全滅させましたが、仮装巡洋艦「信濃丸」から「敵艦見ゆ」の第 1 報により、旗艦「三笠」から大本営へ、第 1 艦隊参謀・秋山真之海軍中佐(後に中将)起案の有名な電文「敵艦隊見ゆとの報に接し、連合艦隊は直ちに出勤、これを撃滅せん」とす。本日天気晴朗なれども波高し。」を打電後も、各艦は絶えず無線電信によって正確な情報を交換、戦況を有利に導き、戦争で無線電信の威力と必要性を世界中に大きく示しました。

6、音色モールス

HST(High Speed Telegraph)世界大会というのがあります、高速電信の大会ですが、どのくらい高速の送受信かと言うと、PARIS 速度 500~600 字/分の世界です。

この大会では、受信はタイプ受信でも筆記受信(速記)でも良く、清書する時間が与えられます、送信は、縦振れでも横振れ…シングルレバーでも、ダブルレバーでも良い。

トップクラスの選手は、単純な構造の横振れシングルレバーのようです、エレキー、バグキーの方が有利な気がしますが、あえて、余計な機能がついていない、この横振れシングルレバーで、PARIS 速度 500 字/分くらいをこなすようで、正に神業です。

(エレキー等についている便利な機能は超高速送信では誤字送信が多くなるとのこと)

受信もこのくらい早いモールスは、いわゆる音色モールス受信とのこと、通常モールスを受信するのは、800Hz くらいのトーンを聞くわけですが、超高速の 300PARIS あたりから、特に短点の数が聞き分けられなくなり、400PARIS くらいから、1 ワードの塊が短点だけで打っているように聞こえてきて、短点いくつ、長点いくつといった聞き方は出来ない領域とのこと。

訓練を積むことによって、トーンとマーク・スペースを構成するクリック音が渾然一体となった音から、新たに本来の文字をイメージできるようになるようで、JE1SPY 葦川 OM は、これを「音色モールス」と名付けています。

私のような下手の横好きのクラスでは、及びもつかない、想像を絶する別世界です。

HST 世界大会に、過去 JA から以下の CW の名人・達人の OM さんが参加しています。

JA2CWB、JA1OQG、JH9CAJ、JE1SPY(2 回)、JL1WFD…(元プロや大学生も)

出展:「モールス通信」、「モールスキーと電信の世界」、「実践ハムのモールス通信」…いずれも「CQ

出版」刊…以上の書籍は CW マンには「モールス通信の全てが分かる 3 部作」としてお奨め